

2020 年度の気象に関する普及活動実施報告

江越 航^{*1)}, 西岡 里織^{*2)}

概要

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、気象に関する普及活動も、大きな制約を受けることとなった。多くのイベントが中止を余儀なくされたものの、限られた形ではあるが、一部の講座については開催することができた。また、展示やオンラインなど、例年とは違った形での普及活動も実施した。本稿では 2020 年度に実施した気象に関する普及活動の概要について報告する。

1. はじめに

気象は毎日の生活において関わりが深く、自然現象の中でも最もなじみがある事項である。小中学校の理科、高校の地学においても主要な一分野を占めている。そのため当館でも定期的に気象に関するイベントや講座を開催しているが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、普及活動の実施も大きな制約を受けることとなった。例年実施していたイベントの多くが中止となったが、感染防止対策を行うことで、一部の講座については開催することができた。また、展示やオンラインを活用するなど、例年とは違った形での普及活動も実施した。

以下に、2020 年度に実施した気象に関する普及活動の概要について報告する。

2. 夏休み“mini”ミニ气象台 2020

大阪管区气象台と共催で、毎年開催している「夏休みミニ气象台」は、昨年度は形式を変更して「“mini”ミニ气象台」として開催した。例年は研修室を会場に、気象に関するさまざまな展示物やミニ実験コーナーを設置し、2 日に渡って气象台の職員の方が 20 名程度来られて解説していただいていた。しかし今年度は感染防止のため、狭い部屋に多人数が集まるイベントの開催は困難なことから、アトリウムの展示ケースに夏休み期間中、気象に関するポスターやビデオなどを掲示する形とした。展示期間は 7 月 15 日(水)~8 月 30 日(日)である。

“mini”ミニ气象台の展示内容は

- ・ パネル展示
气象台のしごと
防災気象情報(大雨に関する情報、危険度分布、熱中症)
津波フラッグ
 - ・ ビデオ上映
危険度分布 PR 動画、津波避難のアニメーションをモニターでリピート再生
 - ・ 気象測器展示
雨量計、気圧計について、機器の変遷を示す新旧の 2 種類の測器を展示
 - ・ パンフレット配布
気象庁のしごとや、危険度分布等、防災気象情報について紹介するパンフレットの配布
- というものである。気象測器は当館所蔵の資料を展示した。



写真1 「夏休みミニ“mini”气象台 2020」の展示

*大阪市立科学館 学芸員

*1) egoshi@sci-museum.jp

*2) s-nishioka@sci-museum.jp

今回は対面で直接説明することはできなかったが、ポスターの内容は気象を業務とする立場を活かした実践的のものであり、ビデオも子供でも理解できるよう工夫されたものであった。

例年のイベントに比べて長期間展示したこともあり、プラネタリウムの待ち時間などに、時間を取ってご覧いただく方も多く見受けられた。

3. 楽しいお天気講座

2011 年度より日本気象予報士会関西支部と共催で、「楽しいお天気講座」を開催している。例年、季節の気象現象に応じて 5 講座を実施しているが、昨年度前半は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初予定していた

- ・ 5/23 天気予報にチャレンジしよう
- ・ 7/4 いろんな雲を観察しよう
- ・ 8/29 台風のふしぎ

の 3 講座は中止とした。その後、感染防止対策の内容が固まったことから、この対策を実施することで、年度後半の 2 講座は開催することができた。

講座実施にあたり実施した感染防止対策は、表 1 の通りである。

表 1 実施した感染防止対策

対策	内容
密集回避	・募集人数を 30 人から 9 人に減員 ・付添人数も 1 人に制限 ・講師の人数も 2 人に限定
飛沫感染防止	・講師、参加者のマスク着用 ・講座内では参加者に大きな声での発生を促さない ・講師は各々マイクを使用
接触感染防止	・受付に透明シートを設置 ・参加費の受け渡しはトレーを使用 ・親子ペアでの申し込みとし、実験中の講師によるサポートを控える
その他	・入館時の検温チェック ・窓を開けて教室内の換気実施

実施した 2 講座の内容は次のとおりである。講座の対象は小学 3 年～中学生で、今年度の定員は小中学生と保護者のペア 9 組である。実施にあたって参加者から材料費、講師旅費等として、10/24 の講座は 500 円、2/6 の講座は 800 円を徴収した。

「お天気いろいろ クイズに挑戦！」10月24日(土)

天気予報、雲、台風など、天気について、色々なクイズに挑戦し、「それはなぜ？」を考えて、天気全般に

ついて学ぶ内容である。

中止 3 回分を含めて、お天気全般の話題を講座形式で実施した。講座形式は一方的になりがちなため、クイズ形式で実施した。

「雪の結晶を作ろう」2月6日(土)

雪が降る仕組みを解説し、「平松式ペットボトル人工雪発生装置」により、ペットボトルに雪結晶をつくる実験を行う講座で、毎年人気がある実験である。

感染防止のため、実験装置は全て講師が事前に作成したものを配布し、ペットボトルの表面をアルコール消毒、配布の際はビニル手袋着用で実施した。

以上のような形で、内容、人数とも大幅に限られて形であったが、一部の講座は開催をすることができた。気象予報士会が用意した講座は、教材・内容とも良く練られたものになっており、参加者のアンケートも分かりやすかったというものが多かった。

4. オンラインでの配信

科学館での活動が制約されることから、オンラインでの配信も試行した。展示場には気象の展示を整備し、常設展示を行っている。この展示に関連した資料を用いて、ジュニア科学クラブ向けに YouTube での動画配信を行った。この配信の内容は、別途[1]で報告する。

5. 大阪管区気象台長表彰

コロナ禍の状況の中であったが、昨年度科学館の気象に関する普及活動が評価され、大阪管区気象台より表彰をいただくことができた。

7月17日に気象台より木俣台長が来館され、当館の齋藤館長が感謝状と記念品を受け取った。

当館の普及活動が、気象台からも評価いただいたということで、今後も自信をもって気象の普及活動に取り組んでいけると考えている。

6. おわりに

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、限定された形となったが、感染防止対策を行いながらも、一部の普及活動を実施することができた。

気象は日常生活にもかわりが深く、気象現象の理解の重要性は変わらない。活動が制約される中でも、オンライン等、新たな方法も用いることで、可能な限り普及活動を図っていきたいと考えている。

参考文献

[1]西岡里織，大阪市立科学館研究報告，31，p107-110 (2021)